

(2面から続く)

これだけの事務処理を慎重かつ正確にしなければなりません。決算認定制度の最も重要な意義は、審査結果を後年度の予算編成や行政執行に活かされるように努力することです。今後、行財政改革の柱となります。そのためには、調整する収入役、審査する監査委員と市長、認定する議会と市長がそれぞれの立場で、できるだけすみやかに処理することが望ましいと考えますが、市長の所見を伺います。

市長 決算審査の早期認定について、監査委員や収入役等を交えて協議した結果、審査を早めて、議会に提出する実務的な要素があります。しかしながら、審査機関や議会開会の問題などをこれから調整しなければなりませんので、いろいろ調整させていただいて提出を早めることに努力します。

「ごみ五〇%削減」の現状は

牧嶋議員(無党派)
高座清掃施設組合の整備計画について

二〇〇二年三月策定の一般廃棄物処理基本計画で示された、「ごみ五〇%削減」を目標に、海老名市、綾瀬市そして本市はこの間、ごみの減量化、資源化を進めるためにさまざまな取り組みを行い、市民の理解と参加により成果を上げてきました。しかし、施設面では、可燃ごみの五〇%を占める有機性廃棄物や剪定枝の資源化施設が具体化できていない。今、二〇〇一年度をめどとした「ごみ五〇%削減」は大変厳しい状況となっています。この現状について市長の所見を伺います。

また、今年度は一般廃棄物処理基本計画の見直しと新たな施設整備について、これまでの国庫補助金制度から循環型社会形成交付金となり、循環型社会形成地域計画の策定が予定されています。交付金ありきの計画ではなく、特に炉の建てかえについては延命処置も視野に入れ、有機性廃棄物の資源化施設を優先として検討が必要と考えますが市

ことが望ましいと考えますが、市長の所見を伺います。

市長 「ごみ五〇%削減」の施策として最も効果を求めていたものが有機性廃棄物の資源化施設でありましたが、技術的成熟度が低いことから今のところ早急に実施することが困難であると判断しております。

また、炉の延命については、使用可能であればできるだけ長く使用していくという意識を持たなければならぬわけですが、高座施設組合と三市でメンテナンス費用等の費用対効果も十分精査し対応を進めてまいりたいと存じます。

沖永議員(市民連合)

介護保険 高齢者福祉について

市が昨年実施した介護保険アンケートの自由意見の欄には、在宅・施設を問わず保険料負担、利用料負担についての不安や負担の重さが数多く記されております。政府の税制改悪によつて、高齢者控除の廃止や公的年金控除の額が引き下げられ、住民税非課税世帯から課税世帯になった高齢者世帯は、約四千世帯。この層は年金所得が変わらないにもかかわらず、新たに住民税課税されるのみならず、介護保険料や国民健康保険料のアップなどさまざまな負担がかかっています。その場合大いに懸念されるのが負担の重さ故に、本来必要とされる介護サービスを自己抑制してしまうことです。給付抑制を自己目的化した

利用者負担の軽減策を

介護保険

ような今回の介護保険法の改悪、そして利用者負担の急激なアップに対して、市独自の利用者負担軽減策を実施すべきだと考えますが、市長の所見を求めます。

また、訪問介護で一時間を超える身体介護は、事業者への介護報酬が極端に減らされ、滞在型のヘルパー派遣が実質上不可能となる措置がとられています。全身性マヒの方や認知症の方を介護する家族から要望の多い滞在型ヘルパー派遣について、市はどのように対応されるのでしょうか。

市長 ご指摘をいただいているような制度としての課題が存在または生じてくることもあり得ると思っております。今後市として対応が必要部分がなければ検討していくことが必要だと思っておりますが、もう少し推移を見させていただきたいと思います。

とにも、県の計画で育成成してあります。教育委員会と児童福祉所管との連携はどのようになっているのか。保護者との連携、養護学校との連携はどのようになっているのか。教職員に対する軽度発達障害についての研修など、理解向上のための施策はどうなっているのか。本市における現在の具体的な取り組み状況と今後の計画についてお伺いします。

教育長 特別支援教育については、保護者と協力しながら個別の支援計画を作成していく予定であります。また、各学校においては校内支援委員会を設置し共通理解を図ると

伊田議員(政和会)

「座間地区」の医療機関について

「暮らしの情報・座間市民便利帳」に掲載されている話帳に掲載されている市内の各医療関係施設についてその所在地を調べてみました。

座間1丁目、2丁目をひとつのエリアとすると少し限定しすぎですので、新田宿・四ツ谷地区、観音坂、梨の木坂などの坂道の下にあたる入谷1丁目、2丁目を含めた地域をエリアとしても、なんと小児科が診療科目に入っていない内科一軒と皮膚科一軒しかないのが現状です。

この地域は、ファミリー向けの戸建住宅やアパートも年々ふえ、乳幼児、小学生、もちろん古くから住まれているお年寄りも多いため、小児科や外科を始めとして各医療関係施設の必要性がなお高まっていると言っても過言ではありません。

座間1丁目、2丁目を中心に新田宿・四ツ谷地区、入谷1丁目、2丁目を含めたこの地域の小児科、外科医院が一軒もない現状について、街づくりの観点から市長の所見を伺うものであります。

市長 一般論でお話をしますと、お医者さんもひとつの経営的な考え方、場所決定をするにしてもそういうこととの判断をもちたれるのはやむを得ない部分がございます。

「座間地区」に小児科医院を!

小児科

今後の地域活性化策・構想について

京免議員(政和会)

本市は、都市化の波とともに工業中心の企業誘致を行ってきたことにより、N社の企業城下町が形成され関連企業が立ち並んでいました。しかし、大手製造業撤退などの影響により、市内工業が停滞傾向にあることから、現在は商業等の比率が高くなりつつあるものの、近隣市町村の商圏が大きいことなどから市内商業も衰退気味であり、本市における地域経済は依然として厳しい状況にあると思っております。

地元商業の活性化を推進するには、商工会をはじめ各種団体の協力体制強化が必要不可欠であり、組織の抜本的改革も求められていると考えます。今後市内商業は衰退しかねません。取りまとめ

をしている行政として、団体への働きかけや今後の活性化策、構想について見解をお伺いします。

市長 商工業の振興は、地域社会を支える柱であり地域雇用の安定や拡大、さらには市民の所得の向上などさまざまな部分において重要な意味合いを持っています。そのような中で、商工会、商業部分は商工会と連携を図りながら地域商店街とさまざまな施策等も展開をしており、座間工業会の関係にしても、企業誘致等の関係でお互いに情報交換等を行い協力体制をとってまいります。今後商工会、工業会の連携を強化していただきながら、県の商工労働部、県産業技術センターなどとの関係も緊密に意見交換等をして、産業の振興に努力をさせていただきます。

大矢議員(政和会)

交通安全対策について

交通安全対策について

大矢議員(政和会)

交通安全対策について

自動車は、道路交通法上では軽車両として扱われ信号機や道路標識に従わなければならないが、歩道通行可という標識があるところでは歩行者を優先して通行できるため、通勤・通学等の交通手段として気軽に利用されております。しかし、歩道上での危険な運転や利用者のマナー低下による自転車事故が多発し、深刻化しています。平成十七年の県下自転車交通事故の死者数は二十九人中十一人が高齢者で、自転車事故者数千六百人の四〇%にあたる六百三十六人が未成年であります。本市の交通事故発生件数及び自転車事故件数についてお伺いします。また、自転車事故を未然に防止するために、どのような対策を講じているかお聞

自転車事故防止対策は

交通安全

なかなか私どもの方としても医師会の方とそういう実態を時折協議させていただいていますが、残念ながら今日指摘をいただくような状況が存

在しております。今後とも本市の医師会の皆様等に投げかけながらいろいろと協議させていただきたいと考えております。

市長 本市における平成十七年の全交通事故件数は七百七十四件、そのうち自転車事故件数は二百四十五件で全体の二八%を占め、特に未成年者は九十二件で全体の三八%と高く、また、高齢者の交通事故は百四十七件で一六・八%を占めています。対策ですが、高齢者には前年に二回ほど運転適性検査を実施、運転免許をお持ちでない方を対象に運転者の視点から見た危険性を体験し、被害者にならない行動を学んでいただきました。また、お年寄りに、交通事故に遭わないような啓蒙は絶えずさせていただいており、さらに警察、交通指導員にご協力いただき、交通安全キャンペーンや小学校の自転車乗り方教室等の交通安全指導を行っております。

うことです。その後、江戸城が築かれて都に人が集中して都市ができ、やがて人は農村地帯に分散して座間も都市化してきたということです。

そこで日産の裏を走る市道三八号線ですが、この道路は一番大切な幹線道路だと思えます。市道三八号線に入つて国道二四六号線に行く間に、市道一一号線がなせストップして

市道三八号線の分断を解消せよ

吉田議員(自民党明政会)

市道の政治姿勢について

市長の政治姿勢について

都市、都の発展というのは道路からというのが日本の実情です。奈良時代の平城京は、今の大和郡山市から朱雀門まで朱雀大路として幅員八十五メートル、長さ三・七キロメートルの道路であったと言われています。そして奈良は七十年間文化の中心として栄え、その間に遷都された各宮でまちづくりができていったとい

(4面へ続く)